

公立大学法人奈良県立大学

第2期中期計画

[令和3(2021)年度～令和8(2026)年度]



令和3年 3月

令和5年 3月(変更認可)

公立大学法人奈良県立大学

# 目 次

はじめに	1
中期計画の変更にあたって	2
I 教育	
・ 教育内容の充実	3
・ 教育の質保証	4
・ 学習環境及び教育環境の充実	5
・ 附属高校の教育の充実と高大接続の推進	7
II 研究	
・ 研究力の向上	8
・ 研究推進体制の充実	8
III 地域連携	
・ 地域のステークホルダーとの関係構築	9
・ 地域のシンクタンクとしての機能充実	9
・ 学び直しの機会の提供	10
IV 国際交流	
・ 海外の大学との研究・教育交流の充実	11
V 法人運営	
・ ガバナンス体制の充実	12
・ 健全で安定的な法人運営	12
・ 働き方改革の推進	13
・ 情報発信の推進	13
VI 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画	14
VII 短期借入金の限度額	14
VIII 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	14
IX 剰余金の使途	14
X 県の規則で定める業務運営事項	
施設・設備に関する事項	14
積立金の使途	14
その他法人の業務運営に関し必要な事項	14

## はじめに

平成 27（2015）年 4 月に公立大学法人に移行した本学は、「奈良の再発見を通して日本と世界に貢献する」ことを建学の精神に掲げ、日本の歴史文化の原点である奈良の地で、ローカルかつグローバルな視点を持って活躍できる人材の育成に取り組んでいます。

第 1 期中期計画期間の 6 年間においては、本学の教育の特色である学生と教員が集う学びの共同体「学習コモンズ」による人材育成、研究支援や地域との連携強化のための地域創造研究センターの設置、海外大学との学術交流・学生派遣、安定的な法人運営などに取り組み、計画の実現を図ってきました。

このたび県から新たに示された第 2 期中期目標を達成するため、第 1 期の成果や課題を踏まえつつ、「教育」「研究」「地域連携」「国際交流」「法人運営」を柱として、これからの 6 年間で取り組む本計画を策定しました。

第 2 期中期計画期間においては、工学系新学部や附属高校の設置も予定しており、県から期待されている『将来の地域社会を担うリーダー人材の輩出』に向けて、県、関係機関と連携しながら、引き続き取り組んでまいります。

令和 3 年 3 月  
公立大学法人奈良県立大学  
理事長 北岡 伸一

## 中期計画の変更にあたって

第2期中期目標において示されていた本学への工学系新学部設置について、今般、県において工学系の教育研究機関を本学とは別に設置することが決定されました。これに伴い、新学部の設置に替わって、「入学定員増に向けた教育体制の充実」に取り組むよう、中期目標が変更されたところです。

この中期目標を達成するため、中期計画を変更し、令和7年度の入学定員増に向けて教育体制の充実を図るなど、引き続き積極的な取組を進めてまいります。

令和5年 3月  
公立大学法人奈良県立大学  
理事長 北岡 伸一

# I 教育

価値目標 I	教育内容の充実
--------	---------

## ○学習コモンズ制による少人数対話型教育を通してコミュニケーション能力の向上を図る

### ◆取組内容

- 少人数対話型教育により、主体性やコミュニケーション能力など、社会人としての基礎的な力を習得させる
- 自治体や企業などと連携したPBL<sup>1</sup>（課題解決型学習）の実施により、実践的な課題解決能力を鍛える

### ■実現目標

項目	現 状	R 6 年度目標	R 8 年度目標
(1) ゼミ活動の充実により、主体性や協働する力の涵養	実施	ゼミ活動の更なる充実を図る	
(2) AL <sup>2</sup> （アクティブ・ラーニング）やPBLの実施〔件数〕	200件	350件	400件

## ○グローバル人材の育成に向けた語学教育の充実を図る

### ◆取組内容

- 新たな外国語の語学教育プログラムを実施する
- カリキュラム改革の進展に合わせて、ネイティブ教員が担当する英語の授業の充実を図る

### ■実現目標

項目	現 状	目 標
(3) 語学教育プログラムの開発と実践	検討中	新たな語学教育プログラムの導入及び実施
(4) 英語教育の強化	実施	英語必修化や習熟度別クラスの導入等により英語教育を充実して実施

<sup>1</sup> PBL（Project Based Learning）…課題解決型学習。受動的な学習ではなく、学生自らが問題を発見し解決する能力を養うことを目的とした教育法

<sup>2</sup> AL（Active Learning）…アクティブ・ラーニング。教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法

## ○教養教育の一層の充実を図る

### ◆取組内容

- 教養科目の構成を見直し、教養教育の体系化を図る

### ■実現目標

項 目	現 状	目 標
(5) 教養教育の体系化とそれに基づくリベラルアーツ科目の充実	—	・体系化を実施 ・リベラルアーツ科目の更なる充実

## ○入学定員増に向けた教育体制の充実を図る

### ◆取組内容

- 令和7年度に入学定員を50名増員する
- 必要な教職員の確保及び施設の整備を進める

### ■実現目標

項 目	現 状	目 標
(6) 入学定員増に向けた教育体制の充実	—	検討、実施

## ○新たな教育研究組織の設置に向けた準備を行う

### ◆取組内容

- 大学院設置の準備を進める

### ■実現目標

項 目	現 状	目 標
(7) 大学院設置に向けた検討	検討中	大学院設置の準備を進める

価値目標 2

教育の質保証

## ○FD<sup>3</sup>研修などを通して教員の教育能力向上を図る

### ◆取組内容

- 組織的なFD活動を推進し、教員の教育力の向上と授業内容・方法の改善を図る

<sup>3</sup> FD (Faculty Development) …ファカルティ・ディベロップメント。教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称

### ■実現目標

項 目	現 状	目 標
(1) F D研修の充実	実施	教員の教育能力の向上を図る 取組を実施

### ○教員組織を充実し教育機能の強化を図る

#### ◆取組内容

- 多様な任用形態を進めることで優秀な教員を確保し、社会の変化に対応した教育研究体制を推進する

### ■実現目標

項 目	現 状	目 標
(2) 教員の任用制度の多様化とその活用	実施	検証、見直し等を実施
(3) 教員の多面的評価の実施	—	検討、実施

### ○学修成果の可視化を行うなど、教学マネジメントの推進を図る

#### ◆取組内容

- 成績を中心とした教育情報を分析し教学マネジメントに活用するため教学 I R<sup>4</sup>機能の充実を図る
- 各種の学習記録及び成績評価により教育成果と学修成果の可視化を図る

### ■実現目標

項 目	現 状	目 標
(4) 教学 I R機能の充実	—	検討、実施
(5) 学修成果を可視化する手法の検討と実施	実施	随時見直しを行い、充実して実施

## 価値目標 3

## 学習環境及び教育環境の充実

### ○学生生活に対するサポート体制を充実する

#### ◆取組内容

- 履修相談、成績問合せ、ゼミ教員による相談、学習管理システムのポートフォ

<sup>4</sup> 教学 I R…教育改善のため大学内部のさまざまなデータを分析・管理し、計画立案や意思決定に資するデータとして活用する。I Rは Institutional Research の略

リオ<sup>5</sup>機能を活用することなどにより、相談体制の充実を図る

- メンタルヘルスカウンセリングを充実させ、学生が相談しやすい環境づくりを行う

■実現目標

項目	現状	目標
(1) 学習、成績に関する相談体制の充実	実施	充実して実施
(2) メンタルヘルスやハラスメントなどの相談体制の充実	月2回実施	充実して実施

○学生の進路選択をサポートする体制を充実する

◆取組内容

- インターンシップの充実により、多様な就業体験の機会を提供するなど就職支援の強化を図る
- キャリア教育を充実し体系化することにより、特色あるカリキュラムを構成する

■実現目標

項目	現状	目標
(3) 就職希望者の就職率	97.1%	全国国公立大学の平均値以上
(4) インターンシップ等の就業体験の充実	実施	充実して実施
(5) キャリア教育の体系化	—	実施

○キャンパス整備を推進する

◆取組内容

- 県と連携して、新たな大学整備計画に基づくキャンパス整備を推進する
- 学内ICT環境や図書館機能の充実により、学生が学びやすい環境の整備を推進する

■実現目標

項目	現状	目標
(6) 新たな大学整備計画に基づく施設整備の推進	—	県と協力し、実施
(7) 多様な学生のニーズに合わせた修学環境の改善	順次実施	順次実施
(8) 学内ICT環境の整備	順次実施	設備及び職員体制を充実

<sup>5</sup> ポートフォリオ…学生自身が自らの学修成果を収集・記録したもの



(9) 学習支援機能等を拡充した附属図書館の整備	—	内容を検討し、実施
--------------------------	---	-----------

価値目標 4	附属高校の教育の充実と高大接続の推進
--------	--------------------

○ ICT等を活用した主体的な学びや高度な高大連携教育を実施する

◆取組内容

- 附属高等学校を令和4年4月に開校する
- ICTの活用や反転学習の実施により、主体的に学び続ける力を育む教育を実践する
- 大学教員と連携した課題探究型の授業の実施や、大学の授業の受講など、高大連携教育を実施する

■実現目標

項目	現状	目標
(1) ICTの活用や、反転学習を前提としたALの充実などによる主体的な学びの推進	検討中	実施
(2) 課題探究型の学びを支える高校・大学教員連携体制の推進	検討中	実施

## II 研究

価値目標 1	研究力の向上
--------	--------

### ○研究水準の向上を図るとともに、研究成果を積極的に公表する

#### ◆取組内容

- 地域の課題解決につながる研究を推進する
- 「奈良県立大学リポジトリ」の活用等により、研究成果の蓄積と発信を進める
- 共同研究や受託研究を推進し、研究力の向上を図る
- ユーラシア研究センターにおいて、奈良とユーラシアとのつながりについての調査研究を行い、その成果について広く発信する

#### ■実現目標

項目	現 状	R 6 年度目標	R 8 年度目標
(1) 研究成果の論文公表 [公表数]	30編	30編	30編
(2) 研究成果の学会発表 [発表数]	(国内)	30件	30件
	(海外)	3件	3件
(3) 共同研究、受託研究等の実施 [件数]	10件	10件	10件
(4) 教員の多面的評価の実施 (再掲)	—	検討、実施	

価値目標 2	研究推進体制の充実
--------	-----------

### ○競争的研究資金の獲得等の研究支援組織の充実を図る

#### ◆取組内容

- 科学研究費補助金等の外部資金獲得を推進するため、URA<sup>6</sup>を配置し情報収集及び申請支援の機能を充実する

#### ■実現目標

項目	現 状	R 6 年度目標	R 8 年度目標
(1) 科学研究費補助金の申請促進 [申請者率]	34.4%	70%	90%
(2) URAの活用等による研究支援体制の充実	地域創造研究センター設置	URAを配置し、研究支援体制を充実	

<sup>6</sup> URA (University Research Administrator) …リサーチ・アドミニストレーター。大学全体を見据えた視点で研究戦略を立案し、それらに基づき研究体制・環境を整備し、また成果を発信する人材

### Ⅲ 地域連携

価値目標 1	地域のステークホルダーとの関係構築
--------	-------------------

#### ○産学公民連携を促進する

##### ◆取組内容

- 地域の産学公民各団体と連携し、調査研究・社会活動事業を実施する

##### ■実現目標

項目	現 状	R 6 年度目標	R 8 年度目標
(1) 産学公民各団体との連携事業の推進 [件数]	36件	35件	40件

#### ○教育研究を通じて社会的課題の共有と知的交流を深める

##### ◆取組内容

- 県民講座などを通じた社会的課題の共有と知的交流を推進する
- 模擬講義、高大連携のワークショップなどを通じた高等学校との連携を強化する

##### ■実現目標

項目	現 状	R 6 年度目標	R 8 年度目標
(2) セミナー、フォーラム、シンポジウム等の開催 [件数]	4件	5件	6件
(3) 高大連携事業の充実 [件数]	8件	8件	8件

価値目標 2	地域のシンクタンクとしての機能充実
--------	-------------------

#### ○地域創造研究センターを通じた活動を充実する

##### ◆取組内容

- 地域創造研究センターの体制を充実し、地域のシンクタンクとしての機能を強化する
- 地域創造研究センターのシーズ及び成果を積極的に発信し、地域連携に繋がる取組を促進する

■実現目標

項 目	現 状	R 6 年度目標	R 8 年度目標
(1) 地域創造に関する研究の件数	11件	10件	10件
(2) 地域創造研究センターとUR A機能の充実	検討中	URAを配置する等、地域創造研究センターの体制を充実	
(3) 地域創造研究センターの活動 ・成果の教育への還元	—	実施	

価値目標 3	学び直しの機会の提供
--------	------------

○地域における生涯学習の拠点として、学び直しの機会を提供する

◆取組内容

- 大学のシーズと県民ニーズのマッチングを図り、出前講義等による県民への学習機会を提供する

■実現目標

項 目	現 状	R 6 年度目標	R 8 年度目標
(1) 奈良県立大学シニアカレッジ の継続実施	実施	充実して実施	
(2) 出前講義等の充実	71件	50件	50件

## IV 国際交流

価値目標 I	海外の大学との研究・教育交流の充実
--------	-------------------

### ○学生に対する留学相談、情報提供、留学支援制度を充実する

#### ◆取組内容

- 学生の国際交流や協定校との留学生の交換を推進する
- 留学生の派遣と受入の支援体制の充実を図る

#### ■実現目標

項目	現 状	R 6 年度目標	R 8 年度目標
(1) 留学生の受入と派遣 (受入)	7人	10人	10人
数 [人数] (派遣)	30人	30人	30人
(2) 多様な留学機会の提供とサポート体制の充実	実施	充実して実施	

### ○海外の大学・研究者との学術交流を促進する

#### ◆取組内容

- グローバルな教育研究を推進するため、海外との学術交流の質を高める

#### ■実現目標

項目	現 状	R 6 年度目標	R 8 年度目標
(3) 国際セミナー、シンポジウム、研究会等の開催 [回数]	1回	2回	2回

## V 法人運営

価値目標 1	ガバナンス体制の充実
--------	------------

### ○理事長と学長（副理事長）の連携によるガバナンス体制を充実する

#### ◆取組内容

- 法人運営についての自己点検・評価を実施・公表し、業務運営の改善に繋げる
- 大学機関別認証評価を受審し、評価結果を大学改善に活用する
- 教育研究活動に係る情報や財務情報等を積極的に公開する
- 監事と内部監査組織の連携強化を図り、適切な監査を実施する

#### ■実現目標

項目	現状	目標
(1) コンプライアンス体制の強化	実施	充実して実施
(2) 自己点検評価や外部評価等を踏まえた業務運営の実施	実施	実施
(3) 学長裁量経費の効果的な活用	実施	充実して実施
(4) 教育、研究、法人運営等に係る情報公開の推進	実施	実施
(5) 監事監査及び内部監査の継続実施	実施	実施

価値目標 2	健全で安定的な法人運営
--------	-------------

### ○安定的な財務状況を維持する

#### ◆取組内容

- 各種外部資金の獲得による安定的な自主財源の確保を図る
- 事務の効率化等を図りながら、適切な予算配分と目的積立金の効果的な活用により、健全な財政を維持する

#### ■実現目標

項目	現状	R 6 年度目標	R 8 年度目標
(1) 経済性、効率性、有効性を踏まえた財務運営	実施	実施	
(2) 目的積立金の効果的な活用	実施	実施	
(3) 寄付金、外部資金等の自主財源の確保 [額]	12,360 千円 (H27~R1 平均)	期間中 年平均 12,000 千円	

価値目標 3	働き方改革の推進
--------	----------

○勤務環境の改善を進める

◆取組内容

- 人事制度の見直しを進め、適正な人事配置を行う
- 外部委託や各種システムを積極的に活用し業務の効率性の向上を図る

■実現目標

項目	現状	目標
(1) 計画的な事業実施や人事制度改善の推進	実施	実施
(2) システム化や外部委託の促進による業務の効率化	実施	実施

○SD<sup>7</sup>研修等により教職員の意識改革を進める

◆取組内容

- 計画的にSD研修等を実施し、教職員の意欲や能力、資質の向上を図る

■実現目標

項目	現状	R6年度目標	R8年度目標
(3) SD研修等の実施	(回数)	1回	2回
	(受講率)	51%	70%

価値目標 4	情報発信の推進
--------	---------

○戦略的な広報を展開する

◆取組内容

- 大学活動の取組・成果の発信を充実するとともに、創立70周年を契機とした戦略的な広報を推進する
- オープンキャンパスや高校訪問など積極的かつ効果的な広報活動により、アドミッション・ポリシー<sup>8</sup>にかなう学生を確保する

■実現目標

項目	現状	R6年度目標	R8年度目標
(1) メディアへの発信と波及	(発信)	18件	26件
	(報道)	80件	92件
			100件

<sup>7</sup> SD (Staff Development) …スタッフ・ディベロップメント。全ての教職員を対象に、必要な知識及び技能を習得させ、能力や資質を向上させるための組織的な取組の総称

<sup>8</sup> アドミッション・ポリシー (Admission Policy) …入学者選抜の方針。能力や資質など大学が求める学生像や入学者選抜にかかる考え方を示したもの

## VI 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画

別紙のとおり

## VII 短期借入金の限度額

1億円

## VIII 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし

## IX 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合は、教育・研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる

## X 県の規則で定める業務運営事項

### 1 施設・設備に関する事項

県と連携して、新たな大学整備計画に基づくキャンパス整備及び修学環境の改善・整備を推進する

### 2 積立金の使途

前中期目標期間繰越積立金については、教育・研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる

### 3 その他法人の業務運営に関し必要な事項

なし



(別紙)

## 予 算

### 令和3年度～令和8年度 予算

(単位：百万円)

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	1,610
中期目標関連費補助金	2,625
奈良県立大学修学支援補助金	305
自己収入	3,205
授業料、入学金及び入学考査料収入	3,031
諸収入	174
受託研究等収入	24
寄附金収入	1
計	7,770
支出	
業務費	7,746
人件費	5,932
教育研究経費（寄附金経費を含む）	1,560
一般管理費	254
受託研究等経費	24
計	7,770

#### 【人件費の見積り】

中期目標期間中 総額 5,708百万円を支出する（退職手当を除く。）

退職手当については、公立大学法人奈良県立大学職員退職手当規程に基づき所要額を支給するが、各事業年度の予算編成過程において算定されたうえで、運営費交付金として措置される。

#### 【運営費交付金の算定】

県から交付される運営費交付金は、一定の仮定の下に試算されたものであり、各事業年度の運営費交付金は、県の予算編成過程において決定される。

収支計画

令和3年度～令和8年度 収支計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
支出の部	
經常費用	7,913
業務費	7,516
教育研究経費（寄附金経費を含む）	1,560
受託研究等経費	24
人件費	5,932
一般管理費	254
減価償却費	143
収入の部	
經常収益	7,913
運営費交付金収益	1,610
奈良県立大学修学支援補助金収益	305
授業料収益	2,419
入学金収益	394
入学考査料等収益	218
受託研究等収益	24
寄附金収益	1
補助金収益	2,625
雑益	174
資産見返補助金等戻入	143

## 資金計画

### 令和3年度～令和8年度 資金計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
資金支出	7,798
業務活動による支出	7,770
次期中期目標期間への繰越金	28
資金収入	7,798
業務活動による収入	7,770
運営費交付金収入	1,610
授業料等収入	3,031
受託研究等収入	24
その他収入	3,105
前期中期目標期間からの繰越金	28